

第2回内部管理業務分科会 議事要旨

1 開催日時 平成20年7月14日(月) 15:30～16:40

2 場所 永田町合同庁舎第2共用会議室

3 出席者

[委員会] 吉野主査、野原副主査、大山専門委員、小尾専門委員、松尾専門委員

[事務局] 佐久間事務局長 関参事官 他

(議題)

- 人事・給与関係業務に関する業務の効率化の取組
(人事院からのヒアリング)
-

◎吉野主査から、委員による率直かつ自由な意見交換を確保するため、会議は非公開とし、後日、議事要旨を公開する旨の発言があり、各委員から了承を得た。

◎人事・給与関係業務に関する業務の効率化の取組
(人事院からのヒアリング)

○人事・給与関係業務に関する業務の効率化の取組について、資料1に基づき、人事院から説明があった。

○上記の説明に関して、質疑及び意見交換を行った。その主な内容は以下のとおり。

- ・ 何をアウトソーシングするか、イメージはあるのか
→ (人事院) システム開発が我々の使命と考えており、その過程では必ずしもアウトソーシングを念頭に入れてやってきたわけではない。平成21、2年にシステムが導入されるので、その段階になってからアウトソーシングの是非のついて検討したい。
- ・ 官房業務の検討チームのように民間企業の人にプロジェクトに参加してもらい、意見を聞いたりすべき。各府省の意見をいちいち聞いてカスタマイズしていたら、開発コストが膨大になってしまう。民間企業で業務改革の旗振り役をやった人に、民間ではできた、なぜ役所ではできないのか、という意見を言ってもらうことは有効なのではないか。

- （人事院）各府省すべての要望を聞いているわけではなく、一部の制度に基づいてやっている業務でどうしても必要というものについてのみ反映させている。
- ・ 集中管理方式はどのように進めていくのか。また、「運用センター」はどのように運用されるのか。
→（人事院）集中管理方式については、システム開発までは総務省と人事院が分担してやり、運用段階からは人事院が担当するという事になっている。運用センターについては、ヘルプデスクや機器の保守管理については民間に業務委託することを検討しているが、今の段階ではまだはっきりとは決まっていない。
 - ・ 一連の開発から導入、運用まで、投資対効果はどのくらいになると考えるか。
→（人事院）開発費用として去年までで20数億円かかっている。我々は運用コストをどれだけ大きくするかというスタンスでやっている。
 - ・ 共同運用についてはどのように考えるか。
→（人事院）データセンターを一括調達するというコンセプトのもと、共同利用センターの導入を検討している。これは、各府省、例えば人事院の職員なら人事院のLANを経由して霞ヶ関WANに入り、そこを通じてデータセンターに入っていくイメージ。セキュリティーをデータセンター1箇所であれば効率が上がるのではないかというコンセプト。
 - ・ 業務フローの見直しは行っているのか。
→（人事院）システム導入の際、各府省がシステムにあわせて否応無く業務を変えるという意味での見直しは行っている。
 - ・ まずシステム化ありき、業務フローの見直しはそのついでという感じを受ける。大切なのは業務の効率化である。

以上